



夢をかなえ人を結ぶ



# 信州の農業・農村

第2期長野県食と農業農村振興計画  
改訂版



# 第2期長野県食と農業農村振興計画のポイント

## ポイント1 持続的な農業・農村構造への転換を強く意識

- ★ 農業者の加速的な減少や消費人口の減少の本格化など、時代の大きな転換点を迎える中で、農業・農村がめざす姿を描き、その実現に向けた方向性や方策を明確化
- ★ 基本目標「夢をかなえ人を結ぶ信州の農業・農村」を県民・農業者・消費者・農業団体等が役割を持って実現

## ポイント2 2つの基本方向により施策を展開

- ★ 農業・農村の持つ、産業としての役割と暮らし等を豊かにする役割を、産業としての農業を振興する「夢に挑戦する農業」、暮らしの場としての農村を創造する「皆が暮らしたい農村」の2つの基本方向として位置付け

## ポイント3 食・消費者を基本方向の起点に位置付け

- ★ 基本方向に掲げた農業・農村の振興は、食・消費者とのつながりの深化に立脚して展開

## ポイント4 目指す5年後の姿を明示

- ★ 計画を共有し、参加する県民・農業者・消費者等の5年後の姿を「目指す5年後の姿」として明示し、それぞれの計画参加者が具体的将来像を認識したうえで、一緒になって実現

## ポイント5 施策展開のベースとなる事項をプロジェクトとして推進

- ★ 6つの施策を展開するベースであり、速やかに取り組むべき事項をプロジェクトとして設定
- ★ 市町村・農業団体との連携や県民の参加により、英知を結集し推進

## 計画の構成 (目次)

第1章 計画策定の基本的考え方 ..... P2

第2章 食と農業・農村をめぐる情勢 ..... P2

第3章 食と農業・農村のめざす将来像 ..... P2

第4章 食と農業・農村の振興に関する施策の展開方向 ..... P3

### ●夢に挑戦する農業

展開1 夢ある農業を実践する経営体の育成 ..... P4

展開2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産 ..... P5

展開3 信州ブランドの確立とマーケットの創出 ..... P7

### ●皆が暮らしたい農村

展開1 農村コミュニティの維持・構築 ..... P8

展開2 地産地消と食に対する理解・活動の促進 ..... P9

展開3 美しい農村の維持・活用 ..... P10

第5章 重点的に取り組む事項 ..... P12

第6章 地域別の発展方向 ..... P13

## 第1章 計画策定の基本的考え方

### ● 計画策定の趣旨

農業・農村を取り巻く今までに経験したことのない大きな情勢の変化を転換点と捉え、本県の食と農業・農村の振興に向け、将来のめざすべき姿とそれを実現するための施策を総合的かつ計画的に推進するため、「長野県食と農業農村振興の県民条例」に基づき策定

### ● 計画の性格と役割

本県農業・農村に関する施策の基本となり、全ての県民の「食」と「農」に関する指針となる計画

### ● 計画の期間

平成 25 年度～平成 29 年度の5年間

### ● 県民の参画と協働による計画の推進

市町村、農業団体、食材を扱う事業者、農業者、消費者等の主体的な「参画」と、県民と行政並びに農業者と消費者との「協働」を基本姿勢として、県民条例に規定された責務・役割を持って県民が一体となり計画を推進

## 第2章 食と農業・農村をめぐる情勢

### 農業・農村の現状と課題

- 農業者の減少、構造改革の遅れ、担い手不足
- 農畜産物生産量の減少、輸入農産物の増加
- 景気の低迷、農家所得の低下
- 農村コミュニティ機能の低下、耕作放棄地の増加、野生鳥獣被害の発生、農業水利施設等の老朽化

### 社会情勢の変化

- 人口減少社会の到来
- EPA、FTA交渉など国際化の進展
- 情報・流通の多様化と価値観の変化
- 国内外の食品への安全・安心意識の高まり
- 雇用・環境保全など農業・農村の役割の変化
- 自然災害・大規模災害の発生懸念

## 第3章 食と農業・農村のめざす将来像

農業者が夢に向かって農業に取り組み、多くの人々が本県の農村で暮らし続けたいと感じる農業・農村をめざす

### めざす農業の姿

- ◇長野県農畜産物が多くの人々から高く評価され、競争力の高い魅力ある農業が展開
- ◇企業的経営を実践する経営体が、自らの経営発展に加え地域農業にも貢献
- ◇長野県農畜産物のブランドは、国内外において認知
- ◇農業と他産業の連携等によりスケールアップされた力強い産業基盤が構築

### めざす農村の姿

- ◇農村コミュニティに、都市住民や定年帰農者等も参加し活発に活動
- ◇地場農畜産物は、家庭、レストラン、ホテル等で広く利用
- ◇地場農畜産物を使った料理や農業体験を求めて多くの人々が来訪
- ◇農村資源の活用と人々の共同活動により、暮らし続けたい農村が維持

# 第4章 食と農業・農村の振興に関する施策の展開方向

## 1 基本目標

### 夢をかなえ人を結ぶ信州の農業・農村

豊かな自然環境の享受と活用、農と食及び農業者と消費者の結びつきの深化を基盤に位置付け、意欲ある農業者の目標たる夢の実現と、人と人の交わりによる農村の新たな魅力や活力の創出をめざす。

## 2 施策の基本方向

産業としての農業を振興する「夢に挑戦する農業」と暮らしの場としての農村を創造する「皆が暮らしたい農村」を基本方向とし、6つの施策を柱に据え総合的に展開します。

## 3 施策体系、施策の展開

夢をかなえ人を結ぶ信州の農業・農村

食・消費者

### I 夢に挑戦する農業

#### 1 夢ある農業を実践する経営体の育成

- ア 高い技術と経営力を持つ企業的農業経営体の育成
- イ 地域農業を支える活力ある組織経営体の育成
- ウ 新規就農者の育成
- エ 企業の農業参入等の促進

#### 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

- ア 消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興
- イ 自然の力を活かした環境農業の推進
- ウ 農畜産物の安全性確保
- エ 信州農畜産物の生産を支える農地・水、技術

#### 3 信州ブランドの確立とマーケットの創出

- ア 信州農畜産物のブランドの確立
- イ マーケット需要の把握による戦略的な生産・販路拡大と輸出促進
- ウ 6次産業化の推進

農業生産構造の目標等

### II 皆が暮らしたい農村

#### 1 農村コミュニティの維持・構築

- ア 中山間地域等における農村コミュニティの維持・強化
- イ 都市近郊地域等における農村コミュニティの強化

#### 2 地産地消と食に対する理解・活動の促進

- ア 地産地消の推進による信州農畜産物への共感
- イ 食育の推進による豊かな人間形成と健康長寿

#### 3 美しい農村の維持・活用

- ア 農山村の多面的機能の維持と環境保全
- イ 農村資源の利活用の推進
- ウ 安全で快適な農村環境の確保と防災・減災

# 第1節 夢に挑戦する農業

## 施策展開1 夢ある農業を実践する経営体の育成

### ア 高い技術と経営力を持つ企業的農業経営体の育成

企業的な経営感覚の習得と経営手法の導入、農地中間管理事業等を活用した農地の利用集積による経営規模の拡大や経営の多角化等を支援 等

### イ 地域農業を支える活力ある組織経営体の育成

集落営農組織や農作業補完組織の育成、集落営農組織の規模拡大・経営の多角化・法人化の支援 等

### ウ 新規就農者の育成

新規就農者を誘致するための就農情報の一元的発信、新規就農者の技術力・経営力向上、農業後継者の経営継承を支援 等

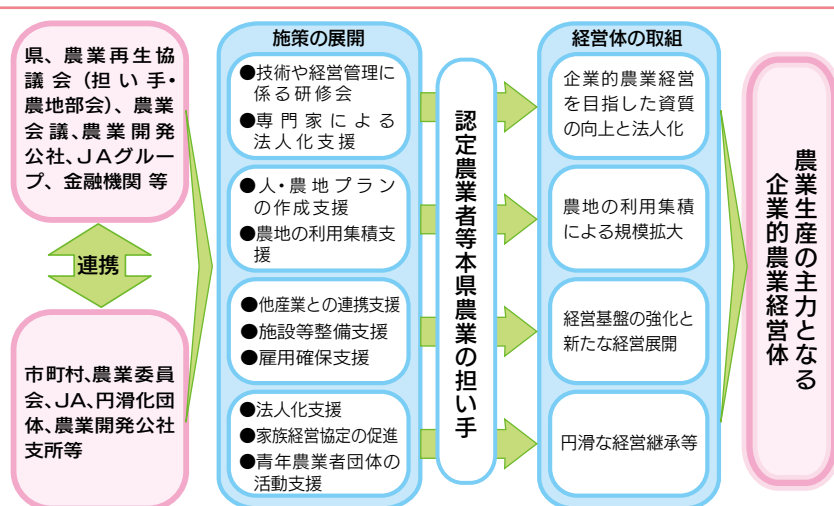
### エ 企業の農業参入等の促進

企業への農地情報の提供、生産技術等の習得支援、企業と農業者で取り組む遊休農地の活用や農産加工等を支援 等

## 新たな視点・加速する視点

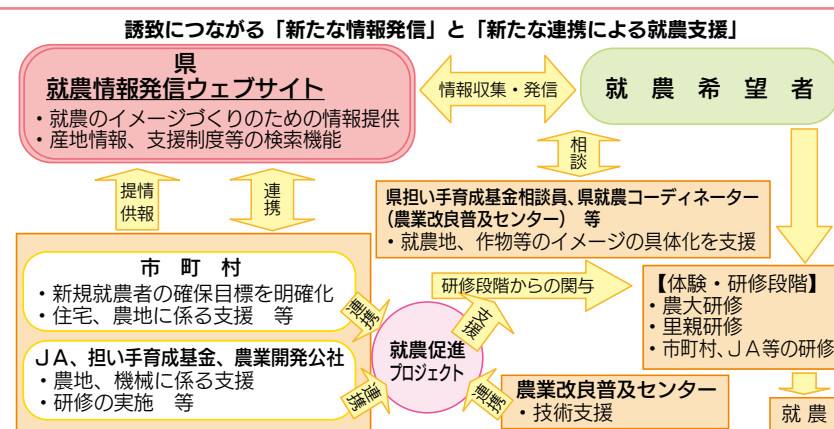
### 企業的農業経営体の育成

- 認定農業者等担い手の企業的な経営感覚や管理能力の習得を支援
- 「人・農地プラン」に基づく、担い手への農地の利用集積を支援
- 食品関連企業等との連携によるマーケットインの生産や新商品の開発等の経営発展の促進
- 経営の法人化、家族経営協定の締結等による経営継承の促進



### 新規就農者の誘致

- 市町村、JA等による新規就農者の誘致目標の明確化による主体的な取組の推進
- 就農情報の新たな発信システムの構築
- 市町村、JA等との連携・役割分担による研修体制等の充実
- 農業後継者の技術力・経営力の向上を支援



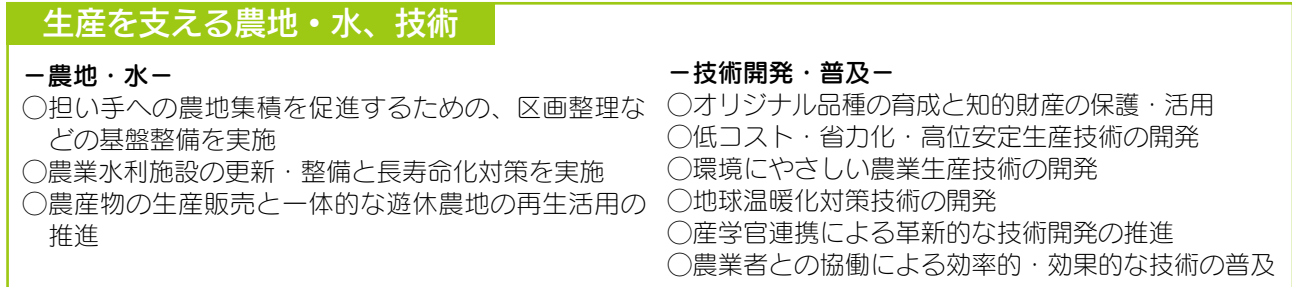
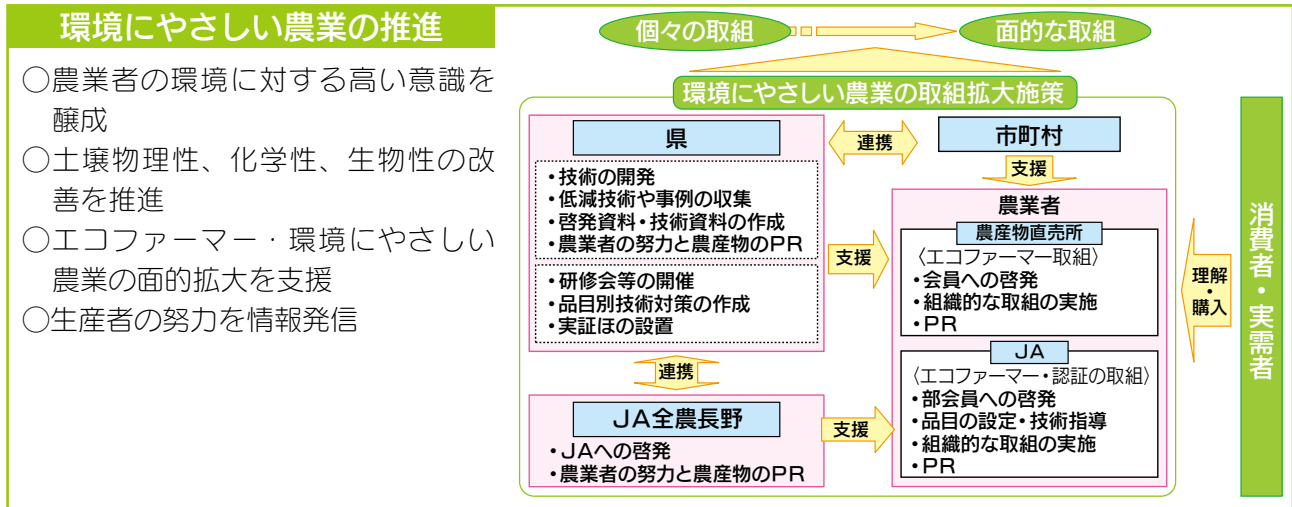
## 達成指標 (H29年度目標)

- ★経営を法人化した経営体の数 758法人→900法人
- ★企業的農業経営体等の数 7,939経営体→9,000経営体
- ★担い手への農地利用集積率 39%→53%
- ★集落営農組織数 212組織→250組織
- ★40歳未満の新規就農者数 190人/年→250人/年

## 施策展開 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

- ア 消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興…P6 参照**
- イ 自然の力を活かした環境農業の推進**  
 高い環境意識を持った農業者の育成、土づくり・土壌診断・IPM等への取組支援、エコファーマー・信州の環境にやさしい農産物認証・有機農業など環境にやさしい農業の取組拡大、省エネルギー技術の導入等地球温暖化防止に貢献する取組推進、資源循環の推進 等
- ウ 農畜産物の安全性確保**  
 放射性物質検査の実施、県産農畜産物の安全情報の発信、GAPや農場HACCP手法の導入支援、農薬等の適正使用の指導実施、鳥インフルエンザ・BSE等の人獣共通感染症の侵入防止・監視体制の強化 等
- エ 信州農畜産物の生産を支える農地・水、技術**
  - ①農地・水  
 担い手等への農地集積を促進するための区画整理・かんがい施設等の一体的整備、麦・大豆等生産拡大のための暗渠排水等の整備、基幹的農業用水路・畑地かんがい施設等の長寿命化対策や整備、農道橋等の耐震対策、遊休農地の再生活用・発生防止の支援 等
  - ②技術開発と普及  
 オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用、低コスト・省力化等の技術開発、環境にやさしい農業生産技術の開発、地球温暖化対策技術の開発、大学・民間等との連携、農業者との協働による効率的・効果的な技術普及 等

### 新たな視点・加速する視点



### 達成指標 (H29年度目標)

- ★エコファーマーの認定組織数 126組織→**310組織**
- ★信州の環境にやさしい農産物認証面積 1,483ha→**2,200ha**
- ★生産者GAPに取り組むJA生産部会・農産物直売所の割合 13%→**39%**
- ★農業用水の安定供給及び排水機能が確保される農地面積 9,500ha→**20,000ha**
- ★遊休農地の再生・活用面積 393ha/年→**600ha/年**

〈作物ごとの生産振興の概要〉

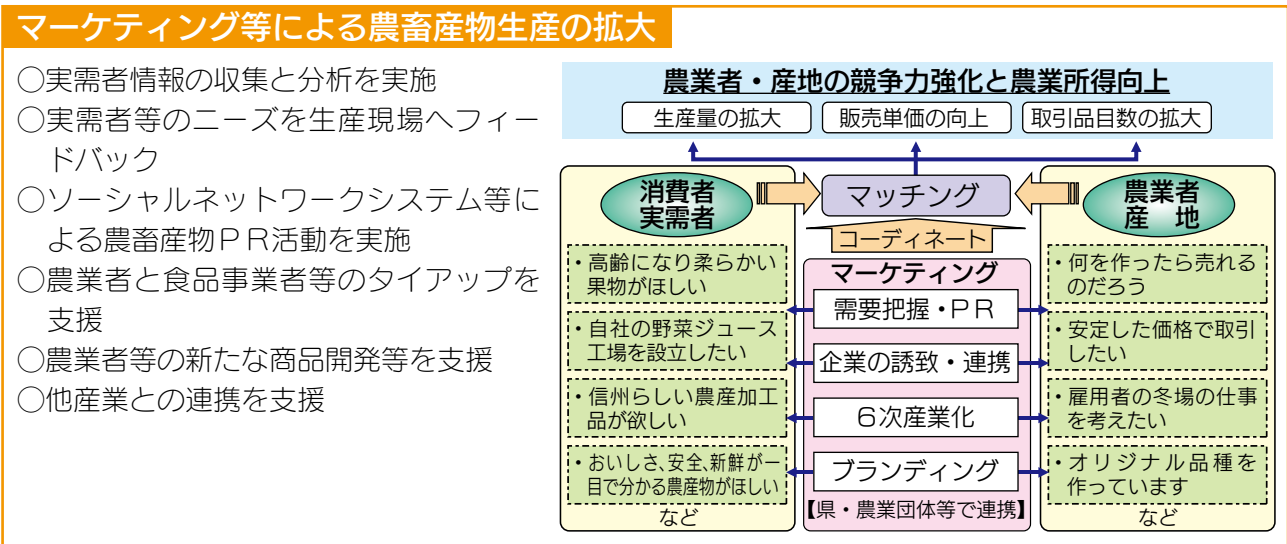
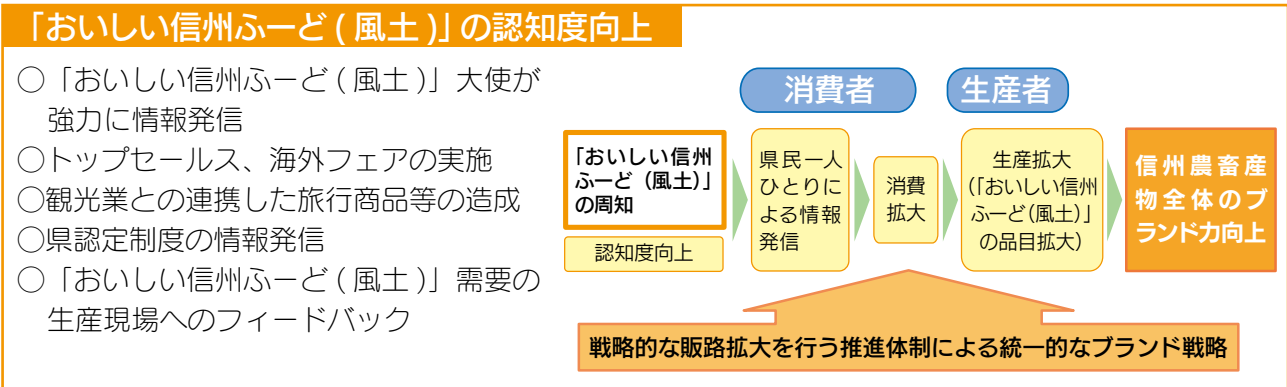
達成指標 (H29年度目標)

<p>米穀類</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経営の規模拡大と安定化支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手への農地の利用集積等による大規模経営体の育成</li> <li>・ICTの活用による低コスト化や収益性の向上</li> </ul> </li> <li>2 消費者に選ばれる特徴ある高品質米の生産                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にやさしい米づくり・県育成新品種「風さやか」の拡大</li> </ul> </li> <li>3 実需者ニーズに対応した麦・大豆・そばの生産拡大                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦「ゆめかおり」、「ハナマンテン」、大豆「すずほまれ」、「すずろまん」の拡大、そば県育成新品種「長野S8号」の導入</li> </ul> </li> <li>4 優良種子の安定供給                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県原種センターと連携した優良種子の安定供給</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★環境にやさしい米づくりの面積 1,228ha→1,887ha</li> <li>★実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積 米 0ha→1,260ha 麦、大豆、そば 311ha→950ha</li> </ul>
<p>果樹</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 県オリジナル品種等による特色ある果樹産地の再構築                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご「シナスweet」、ぶどう「ナガノパープル」、なし「サザンSweet」等の導入・産地化</li> </ul> </li> <li>2 収益性が高く省力的な果樹栽培の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご新しい化栽培の拡大</li> <li>・ぶどう平行整枝短梢せん定栽培の導入</li> </ul> </li> <li>3 うまいくだものを安定生産できる産地づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹品種のレベルアップ</li> <li>・出荷の長期化を支援</li> </ul> </li> <li>4 果樹経営基盤の安定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・園地継承組織の育成</li> <li>・他産業との連携による6次産業化を支援</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★果樹オリジナル主要品種等の栽培面積 1,190ha→2,320ha</li> <li>★りんご新しい化栽培面積 67ha→500ha</li> </ul>
<p>野菜</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 信頼され責任ある野菜産地の持続的発展                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に応じた計画生産</li> <li>・経営規模の拡大と経営力の向上</li> </ul> </li> <li>2 実需者の多様なニーズ、流通の変化に対応できる新たな産地づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約取引等の拡大</li> <li>・果菜類、根菜類の生産拡大</li> <li>・加工業務用野菜等の産地づくり</li> </ul> </li> <li>3 「伝統」「健康」「こだわり」等に着眼した新たな需要の開拓                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費形態等の変化を捉えた新品目等の導入</li> <li>・高品質で少量多品目生産を行う生産者グループの育成</li> <li>・薬草、わさびの生産振興</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★販売額20億円以上の野菜品目数 11品目→13品目</li> </ul>
<p>花き</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全国シェア上位の品目が連なる花き生産体制の維持・拡大                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコギキョウ等の秋切り作型の拡大、ダリア・ラナンキュラス等の拡大</li> </ul> </li> <li>2 多様な実需者のニーズに応える生産体制の構築                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・キク・リンドウ等の物日需要対応、品質・日持ちの向上</li> </ul> </li> <li>3 花き経営体の競争力強化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代への技術継承、花き生産者のネットワーク化</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★生産量全国1位の花き品目数 6品目→8品目</li> </ul>
<p>きのこ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 きのこと農家の経営安定対策の推進</li> <li>2 収益性の高いきのこ産地の育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・えのきたけの高温域培養適性品種「シナノアーリー」の導入、液体種菌・LED照明の導入推進</li> </ul> </li> <li>3 安全・安心・環境対策の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・GAPの導入、使用済み培地のたい肥化と農地還元</li> </ul> </li> <li>4 消費者視点での需要の創出・拡大対策の推進</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★生産量全国1位のきのこ品目数 4品目→4品目</li> </ul>
<p>水産</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高品質ニーズに応える信州サーモン等の安定生産                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州サーモンの品質向上と生産拡大、三倍体イワナの開発・普及</li> </ul> </li> <li>2 遊漁者に魅力ある漁場づくり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期ジマス釣り場の設置、外来魚・カワウ対策の推進、漁業協同組合と観光業者・住民との連携</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★信州サーモン生産量 220t→375t</li> <li>★三倍体の大型イワナ生産量 0t→30t</li> </ul>
<p>畜産</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 消費者の求めるこだわりのある畜産物の生産と供給                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州プレミアム牛肉の生産拡大と品質向上、信州黄金シャモの生産拡大、受精卵移植技術を活用した乳用牛からの和子牛生産</li> </ul> </li> <li>2 地域資源等を活用した生産基盤の強化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品循環資源利用飼料の活用、遊休畜舎等未利用資源の利用</li> </ul> </li> <li>3 家畜伝染病等予防のための防疫体制強化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥インフルエンザ等の侵入防止、発生時の初動体制の強化</li> </ul> </li> <li>4 地域とのつながりを持ち、信州の自然・環境に適した畜産の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・臭気対策等の実施、畜産農家と耕種農家との連携強化</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★信州プレミアム牛肉の認定頭数 844頭→3,700頭</li> </ul>

## 施策展開 3 信州ブランドの確立とマーケットの創出

- ア 信州農畜産物のブランドの確立**  
「おいしい信州ふーど（風土）」情報の発信、シンポジウムの開催、食の魅力等を活用し長野県への誘客を促進、トップセールス及び海外フェアの実施、マーケット情報の生産現場へのフィードバック 等
- イ マーケット需要の把握による戦略的な生産・販路拡大と輸出促進**  
マーケット情報の収集と分析を実施、市場とのパートナーシップ強化、長野県農産物等輸出事業者協議会が中心となった継続的な商業ベースの輸出促進、農業団体・JETRO等と連携した情報発信、海外バイヤーの招へい支援、観光産業と連携した海外での販路開拓 等
- ウ 6次産業化の推進**  
6次産業化を志す農業者の掘り起こし、経営スキルアップセミナー等の開催、情報共有を行う連絡会議の立ち上げ、「おいしい信州ふーど（風土）」等を原料とした新たな商品開発や販路開拓の実施 等

### 新たな視点・加速する視点



### 達成指標（H29年度目標）

- ★「おいしい信州ふーど（風土）」の認知度 県内 24.3%→**県内 75%・県外 25%**
- ★県が主催する商談会における農業者等と食品産業等との成約件数 **250件**
- ★六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数 **94件**
- ★農産物等の輸出額 **121,900千円（H25）→500,000千円**



## 第2節 皆が暮らしたい農村

### 施策展開1 農村コミュニティの維持・構築

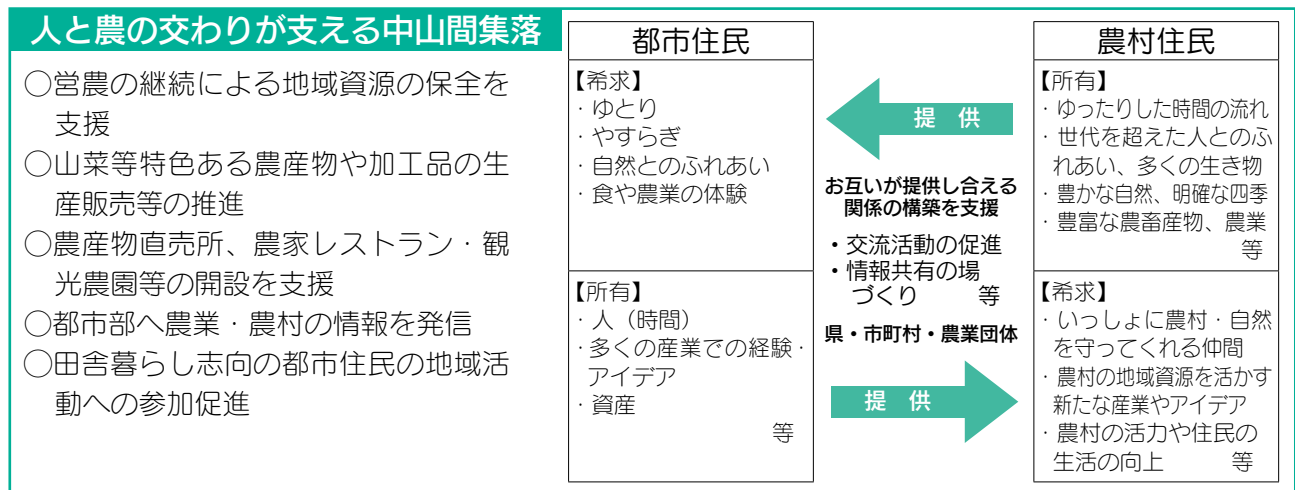
#### ア 中山間地域等における農村コミュニティの維持・強化

集落営農組織の育成や農作業補完体制の整備を支援、遊休農地の発生防止や多面的機能の保全活動を支援、農村女性等の地域資源活用を支援、都市住民へ農業・農村の魅力を発信、都市住民との連携等による地域資源を活用した農家民宿など新たなビジネス創出を支援 等

#### イ 都市近郊地域等における農村コミュニティの強化

農業生産活動に対する非農家住民の理解醸成、ふれあいの場としての農産物直売所・市民農園・体験農園等の整備、農作業体験や地場農産物を活用した料理体験等の開催を支援、農業者と非農家住民が連携して行う水路の泥上げなどの共同活動を支援 等

### 新たな視点・加速する視点

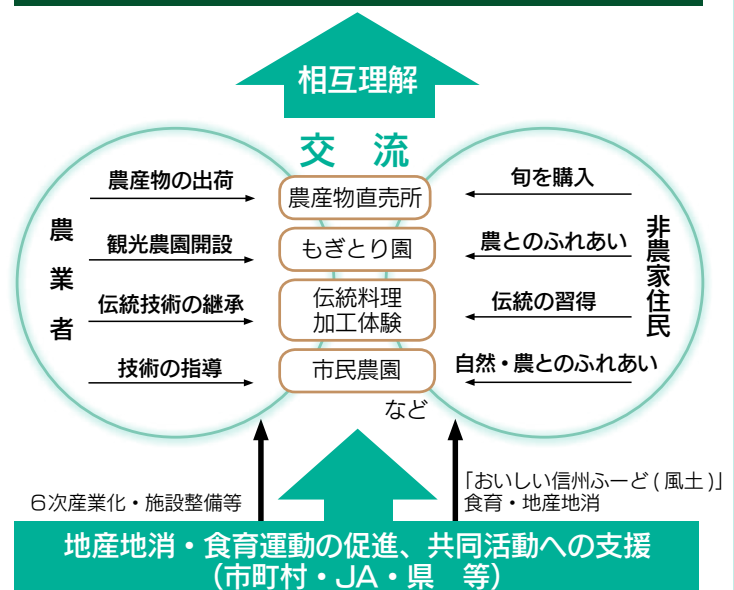


### 食と農を軸にした相互理解

- 学校給食での地場産農産物利用などの地産地消の促進
- 農産物直売所、市民農園等の整備を支援
- 農作業体験・加工・料理体験など農や食を介したふれあいの場づくりを支援
- 地域ぐるみで行う草刈り、水路整備等の活動を支援



### 地域資源を協働で維持・活用、地産地消の拡大



### 達成指標 (H29 年度目標)

★都市農村交流人口 546,544 人 → 600,000 人

## 施策展開② 地産地消と食に対する理解・活動の促進

### ア 地産地消の推進による信州農畜産物への共感

「おいしい信州ふード（風土）」大使と連携した信州農畜産物の情報発信、食文化の継承活動の推進、農産物直売所の整備支援、農業者と旅館・ホテル等のマッチングを支援、学校・病院・社会福祉施設等における信州農畜産物の利用を促進、フード・マイレージ等の普及啓発を実施 等

### イ 食育の推進による豊かな人間形成と健康長寿

食育ボランティア等と連携し学校教育活動における食に関する指導を充実、保育所における地場産農産物を活用した食育の実施、食育ガイド等の普及啓発による日本型食生活の推進、農業者・栄養士等と連携し地域食材の料理方法を学ぶ機会の提供 等

## 新たな視点・加速する視点

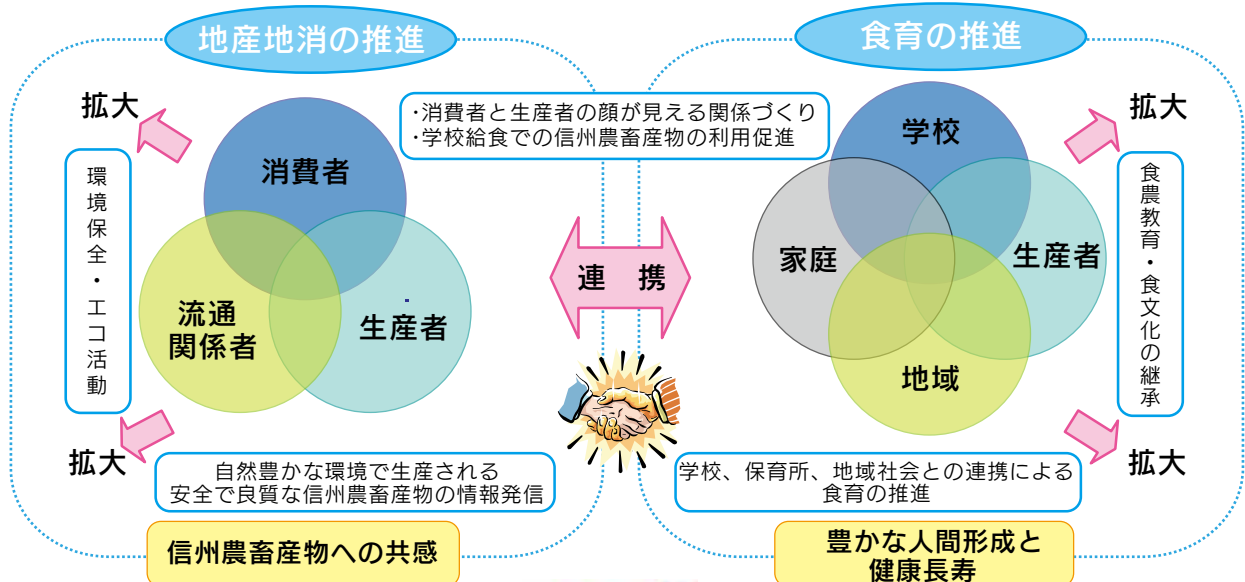
### 購入先の拡大による地産地消の推進

- 安全で良質な信州農畜産物の情報発信
- 生産者と消費者が身近に感じられる直売所の拡大を支援
- 地域食材をメニューとして提供する旅館・ホテル・飲食店等と農業者のマッチングを推進
- 市場機能を活かし、学校給食調理場、病院、社会福祉施設等への購入先の拡大を推進

### 食に関する多様な人々との連携

- 食育ボランティア等と連携し、学校教育活動における食育を推進
- NPOやJAと連携し、子どもを中心とした農業体験の機会の拡大を推進
- 農業者や栄養士と連携し、地域の食材活用した新たな料理方法を学ぶ機会の提供

### 農村の食文化の形成による健康で豊かな暮らしの実現



地産地消推進キャラクター「旬ちゃん」の学校訪問により、食と農の大切さを子どもたちに伝える

## 達成指標 (H29 年度目標)

★農産物直売所数 814 店→840 店    ★食育ボランティア数 15,770 人→20,000 人

### 施策展開3 美しい農村の維持・活用

#### ア 農山村の多面的機能の維持と環境保全

農村資源や農村環境を保全する取組を支援、地域のリーダーの育成、共同活動組織の広域化を促進、中山間地域の耕作放棄地の発生防止活動等を支援、野生鳥獣対策を支援 等

#### イ 農村資源の利活用の推進

農村資源を活用したエネルギー生産の普及と利用促進のための調査研究及び研修会の実施、小水力発電施設等の建設を支援、農業系バイオマス活用情報の提供と燃料化等の取組の促進 等

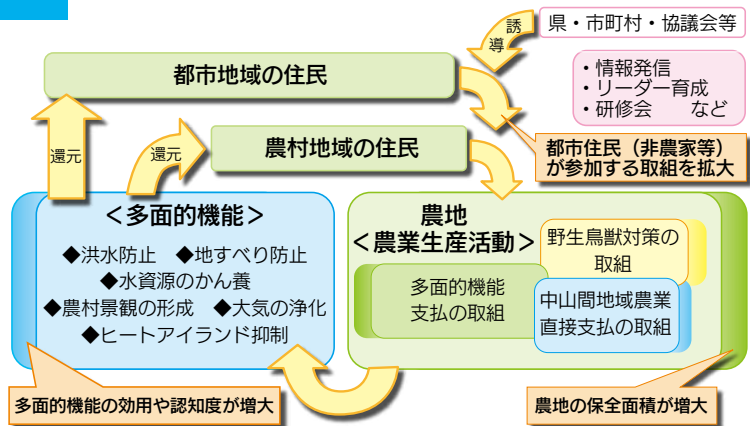
#### ウ 安全で快適な農村環境の確保と防災・減災

老朽化したため池等の補強・改修、地すべり防止施設の設置・補修、ハザードマップの作成支援、基幹農道の整備、石・木材等を利用した工法による農業生産基盤等の整備 等

### 新たな視点・加速する視点

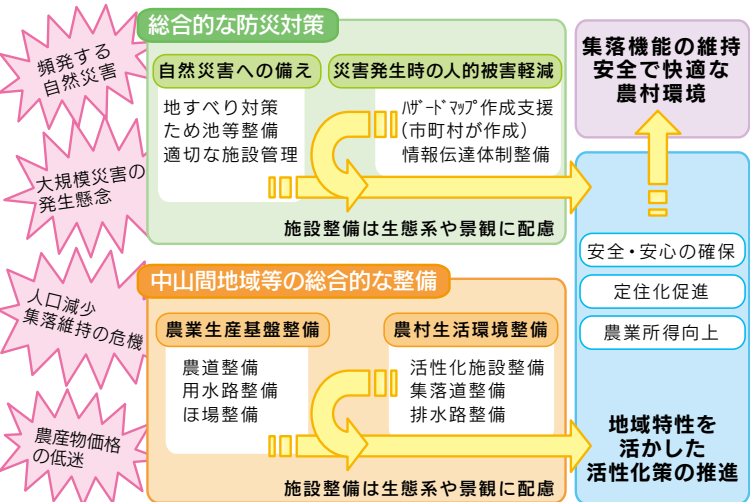
#### 営農の継続と多面的機能の維持

- 地域ぐるみで多面的機能の維持・発揮に取り組む活動組織の立ち上げや体制づくりを支援
- 農地・水・環境を守る地域の核となるリーダーを育成
- 中山間地域の農業を守る集落営農組織の育成を支援
- 野生鳥獣被害防止対策を支援。自ら被害対策を実践できる体制づくりを支援



#### 農村資源の利活用と安全・快適な農村環境づくり

- 農村資源のエネルギー活用に向けた調査・研究を実施
- 自然エネルギーの生産及び利用について普及・啓発を実施
- 農業用水を活用した小水力発電施設の建設を支援
- 老朽化したため池等の補強・改修の実施と管理の支援
- ため池の危険度調査等を実施
- 大規模自然災害等に備えた農地防災対策を実施
- 市町村のハザードマップの作成を支援



### 達成指標 (H29 年度目標)

- ★地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積 22,484ha → 50,000ha
- ★農業用水を活用した小水力発電の容量 220kW → 2,200kW
- ★農地等の安全確保面積 1,760ha → 1,800ha

## 農業生産構造の目標等

### (1) 農業・農村の展望

区 分	平成 22 年	平成29年(見通し)	H29/H22
総農家	117 千戸	<b>109 千戸</b>	93%
販売農家	62 千戸	<b>48 千戸</b>	77%
農業就業人口	100 千人	<b>66 千人</b>	66%
耕地面積	111 千 ha	<b>109 千 ha</b>	98%

### (2) 農業生産構造目標

区 分	平成 22 年度	平成 29 年度 (目標)
担い手経営体数	12,549 経営体	<b>13,500 経営体</b>
認定農業者等の数※	7,939 経営体	<b>9,000 経営体</b>
集落営農組織数	212 経営体	<b>250 経営体</b>
担い手の農地利用率	39%	<b>53%</b>

※認定農業者と基本構想水準到達者の合計数

### (3) 食と農業・農村の経済努力指標

区 分	平成 22 年	平成 29 年 (目標)
農業農村総生産額 (億円)	2,908	<b>3,050</b>
農産物産出額	2,738	<b>2,800</b>
農業関連産出額	170	<b>250</b>

#### (参考) 農産物産出額

区 分	平成 22 年			平成 29 年 (目標)			H29/H22 (%)		
	作付面積 (ha) 頭羽数	生産量 (t)	産出額 (億円)	作付面積 (ha) 頭羽数	生産量 (t)	産出額 (億円)	作付面積 頭羽数	生産量	産出額
米穀類	42,320	224,770	446	<b>42,950</b>	<b>229,628</b>	<b>494</b>	101	102	111
果 樹	15,400	220,200	485	<b>14,920</b>	<b>244,100</b>	<b>490</b>	97	111	101
野 菜	24,897	615,007	801	<b>23,600</b>	<b>630,000</b>	<b>790</b>	95	102	99
花 き	749	199,000 千本 21,010 千鉢	161	<b>722</b>	<b>199,200 千本 18,700 千鉢</b>	<b>160</b>	96	100 89	100
きのこ	—	154,741	495	—	<b>172,864</b>	<b>490</b>	—	112	99
その他	—	—	63	—	—	<b>72</b>	—	—	114
畜 産	124,300 頭 1,403 千羽	150,627	288	<b>123,600 頭 1,375 千羽</b>	<b>149,499</b>	<b>305</b>	99 98	99	106
農産物産出額計			2,738			<b>2,800</b>			102

## 第5章 重点的に取り組む事項

施策を展開する上でのベースであり、早急に取り組む必要がある6つの事項について、プロジェクトに位置付け重点的に推進します。

### プロジェクト1 農業で夢をかなえるプロジェクト

新規就農者を誘致するため、市町村やJA等との連携による情報発信と新たな就農支援システムづくり

- (1) 相談から就農までのステップアップ方式の支援の充実・強化

### プロジェクト2 環境にやさしい農業推進プロジェクト

環境にやさしい農産物の生産を拡大するため、「信州の環境にやさしい農産物認証制度」の「点」から「面」への拡大

- (1) 環境にやさしい農業技術集及び事例集の作成と周知
- (2) 信州の環境にやさしい農産物認証制度の取組の面的な拡大
- (3) 認証農産物の販売支援

### プロジェクト3 新たな産地を築く園芸・畜産振興プロジェクト

消費者・実需者ニーズの高いオリジナル品目・品種の栽培面積拡大や需要期の生産拡大に取り組む産地の早期育成、畜産自給飼料の増産とこだわりのある畜産物の生産拡大

- (1) 果樹オリジナル品種の早期産地化
- (2) 需要に対応できるアスパラガス産地の育成
- (3) トルコギキョウ秋出荷の産地化
- (4) 自給飼料の増産

### プロジェクト4 「おいしい信州ふード（風土）」認知度向上プロジェクト

「おいしい信州ふード（風土）」を市町村や民間企業などと共有し、情報発信等により認知度の向上を図り、県産農畜産物の消費と生産の拡大を推進

- (1) 官民協働による取組の推進
- (2) 「おいしい信州ふード（風土）」SHOPの拡大

### プロジェクト5 ふるさと農村元気プロジェクト

中山間地域の農村集落において、農村住民自らが主体性を持って取り組む農業生産活動や都市住民との交流などを支援することにより、元気溢れるモデル的な農村集落を創り、それを他域にも波及させ、農村コミュニティの維持・強化を推進

- (1) 市町村等と連携した重点地区の設定と行動計画の作成支援
- (2) 地域の知恵と工夫を活かした取組への支援

### プロジェクト6 小水力発電導入促進プロジェクト

市町村、関係団体と連携し、小水力発電の有効性の周知とモデル施設での検証を通じ、取組拡大を推進

- (1) 自然エネルギー活用への理解醸成
- (2) 導入可能性の調査と計画
- (3) 発電施設の建設
- (4) 発電施設導入の促進のための国との調整

## 第6章 地域別の発展方向

### 佐久

～太陽 水 大地～ 人と豊かな恵みで築く佐久の農業・農村

#### めざす将来ビジョン

- 大規模経営者などの意欲ある農業者が中心となって、国内屈指の農業地帯となっています。
- 農業後継者や新規参入者など地域の担い手が育っています。
- 環境に配慮した栽培方法により生産された高品質の農産物が、国内外から高い評価を受けています。
- 農業体験等による都市農村交流と地産地消が進み、健康長寿の里佐久を訪れる人々が増加しています。

#### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①意欲ある経営体の確保・育成（夢のある農業を実践する経営体の育成）	担い手確保計画の作成推進と支援体制づくり、新規就農者の確保、モデル経営農家の育成、6次産業化等による企業的農業経営体への支援
②競争力と持続性の高い野菜総合供給産地づくり	気象変動等に強い栽培技術等の導入、需要期を見据えた適正生産と加工業務用の生産拡大、現地適応試験等の実施、有機性資源の活用等
③伝統ある果樹・花き産地のブランド再構築	高生産園への転換、県オリジナル品種の導入、果樹園継承システムの構築、カーネーション等の秋需要対応技術導入、キクの省力化栽培拡大
④安定的農業生産を支える基盤整備	機能診断と保全計画作成、基幹的水利施設整備、基幹的畑地かんがい施設整備
⑤環境に配慮した生産技術の拡大と農村機能の維持	環境にやさしい栽培技術の普及、地域ぐるみの農地や農業水利施設等の維持管理活動の推進、遊休農地の解消、野生鳥獣被害対策支援
⑥農村の活性化と食と農業への理解の推進	農業体験等の企画支援、直売組織の運営力強化、児童・生徒等の農業体験支援、地産地消の推進

#### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満） 農業法人数	36人 85法人	49人 100法人
契約取引率の拡大 新品目等の産地化	35% —	40% 5品目
りんごわい化栽培率 果樹オリジナル品種栽培面積 カーネ等秋切り出荷率	67% 51ha 34%	75% 90ha 40%
基幹的水利施設整備 基幹的畑地かんがい施設整備	— 1,068ha	6.5km 1,500ha
環境にやさしい認証等面積 地域ぐるみ活動面積 遊休農地再生・活用面積	260ha 2,814ha 180ha	420ha 5,650ha 550ha
都市農村交流人口 農産物直売所数 信州ふーど(風土)SHOP	53,904人 35店 0店	57,000人 38店 50店

### 上小

人・歴史・風土が紡ぐ豊かな上小農業

#### めざす将来ビジョン

- 豊富な日照等を活かし、生産する農産物が人々から高く評価され、魅力ある農業が展開されています。
- 企業的農業経営体は農地の集積や新たな技術の導入等に、定年帰農者や女性などの多様なグループは顔のみえる農産物づくり等に取り組み、それぞれ地域の活性化等に貢献しています。
- 整備された田園で環境に配慮された農業が展開されるとともに、農作業体験や地域の食文化の活用を通じて交流者が高い満足度を得られるような取組が実践されています。

#### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①多様な担い手による魅力ある農業の展開	人・農地プランの作成と実現への支援、新規就農者の育成、企業的農業経営者の確保、女性グループ等多様な担い手の組織化支援
②実需者ニーズに対応した米・畜産物等の供給	環境にやさしい農産物認証等の生産拡大、麦・大豆・そばの県オリジナル新品種の生産振興、農業水利施設の機能維持と計画的な整備
③立地条件を活かした高品質な農産物生産	りんご3兄弟等の生産拡大、樹園地継承の仕組みづくり、ぶどう無核品種への転換促進、レタスの長期出荷体制確立、くるみ・ブロッコリー・ズッキーニ・アスパラガス等の生産拡大、JA・農産物直売所での生産者GAPの取組推進
④農村資源の活用による地域の活性化	農産物直売所の魅力向上、「おいしい信州ふーど(風土)」の利用拡大、ワイナリー等による交流人口の拡大、6次産業化の推進
⑤安全・安心で住みやすい農村環境づくり	集落共同活動の推進、鳥獣被害防止対策、遊休農地解消に向けた広域支援体制確立、ため池等の防災対策

#### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満） 企業的農業経営体数	10人 414経営体	20人 471経営体
麦等新品種普及面積 用水の安定供給確保面積	3ha 1,130ha	75ha 1,600ha
果樹オリジナル品種栽培面積 1億円以上野菜品目数	56ha 6品目	129ha 7品目
直売所売上高 六次産業化法の計画認定数	11億円 0件	15億円 7件
農地等の保全活動取組面積 鳥獣侵入防止柵設置延長	1,966ha 63km	4,632ha 220km

# 諏訪

## 地の利を活かし 人を育む 豊かで活力あふれる 諏訪の農業・農村

### めざす将来ビジョン

- 夏期冷涼な気候などの恵まれた気象条件や観光地を抱えるなどの立地条件のもと、環境に配慮しながら高い生産技術により高品質な高原野菜、花き等が安定的に生産されています。
- 優れた経営感覚の担い手経営体が立地条件、地域資源を活かし効率的な営農を展開し、新規就農者、集落営農組織、女性農業者など多様な担い手もそれぞれの特徴を活かした営農を展開しています。
- 地域ぐるみの共同活動等により、活力に満ちた美しい農村が維持されています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
① 高品質・安定生産による信州諏訪ブランド構築（八ヶ岳西麓地域）	セルリー等の夏期高温対策推進、トルコギキョウの生産拡大とキク産地再構築、そばの生産安定と新品種導入、農業水利施設等の整備・更新
② 効率的な水稻生産と地域特産品目の振興（諏訪湖周辺地域）	水田利用集積による効率的な稲作経営と良質米生産、地域特産物の生産拡大、遊休ハウスの活用と、農地、水の保全及び効率的利用
③ 人・農地プランの担い手経営体を主体とした担い手の確保・育成	人・農地プランの実行と関連支援施策推進、新規就農者の確保と資質向上、女性の農業経営や地域活動への参画促進、集落営農組織への支援
④ 諏訪湖と共生する環境にやさしい農業の実践	エコファーマー取得、環境にやさしい農産物認証、環境保全型農業直接支援対策の推進、施肥量縮減、地域有機物資源活用、GAP導入支援
⑤ 他産業との連携等による付加価値向上と地産地消による農業理解の醸成	付加価値向上や販路開拓への支援、消費者・観光客との交流、農産物直売所の魅力向上、「おいしい信州ふーど(風土)」等PR、地産地消推進
⑥ 活力に満ち、こころ安らぐ美しい農村づくり	美しい農村の維持・創造のための共同活動推進、自然エネルギーなどの利活用促進、農村の安全を確保する施設整備、鳥獣被害防止対策推進

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
セルリー出荷数量	7,759t	9,000t
用水安定供給農地面積	220ha	830ha
稲作経営体農地利用集積面積	147ha	195ha
遊休農地再生活用面積	16ha	50ha
新規就農者数	10人	19人
プランの担い手経営体数	0経営体	230経営体
エコファーマー認定数	1,030人	1,300人
環境にやさしい認証面積	68ha	110ha
六次産業化法の計画認定数	0件	5件
直売所販売額	17億円	19億円
地域ぐるみ保全活動面積	2,012ha	2,536ha
鳥獣被害額	6,067万円	4,200万円

# 上伊那

## 二つのアルプスに抱かれて輝く 上伊那の人・農業・農村

### めざす将来ビジョン

- 農業経営体や集落営農組織等多様な担い手が収益性の高い経営を実践し、効率的な農業経営が営まれています。
- 野菜の重点品目である白ねぎなどを中心に生産拡大が進み、野菜の総合供給産地として発展するとともに、地域特産物の6次産業化により商品開発と販路開拓が進んでいます。
- 地域ぐるみの共同活動等により美しい農村環境と活力ある集落が維持されています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
① 新たな農業経営体の育成・確保	J A インターン制度や里親研修及び実践塾等による新規就農者の育成・確保、農業経営改善の支援、農地の利用集積による規模拡大
② 集落営農組織の育成・確保	法人化に向けた支援、優れたリーダーの育成、園芸品目導入による経営の複合化の推進、農産加工や直売等多様な事業展開の支援
③ 重点推進品目を基幹とした野菜の生産振興	集落営農組織等での白ねぎの面積拡大、アスパラガスの新植等による生産拡大、プロッコリーの省力化による生産拡大と作期の拡大・分散、施設化の推進
④ 花き・果樹・畜産等の生産振興	トルコギキョウの秋出荷の生産拡大、りんご新しい化栽培の推進、遊休農地を活用したかき等の面積拡大、担い手への継承システムの構築
⑤ 地域特産物の生産振興と6次産業化の推進	6次産業化等による商品開発・販路開拓、地域特産物のPRと特産品のブランド化、観光産業とタイアップした農産物の販路拡大
⑥ 美しい農村環境と活力ある集落の維持	耕作放棄地発生防止対策の実施、広域的な野生鳥獣被害防止対策の支援、農業農村整備事業等の実施

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数(40歳未満)	18人	21人
集落営農組織の法人数	9組織	22組織
白ねぎの栽培面積	49ha	70ha
トルコギキョウの栽培面積	9ha	10ha
飼料用イネ等の栽培面積	25ha	160ha
6次産業化等による新たな商品化数	1件	2件
野生鳥獣侵入防止柵設置延長	161km	280km
多面的機能支払活動組織数	42組織	107組織

# 飯伊

## 食・人・文化 新たな出会いが生ま出す 南信州農業

### めざす将来ビジョン

- 多様な担い手の確保、育成が進み、新たな担い手への樹園地の経営継承、野菜周年複合産地化、花き複合経営の展開など総合的な産地化が図られています。
- 集落ぐるみの鳥獣被害対策や基幹的農業水利施設の計画的な整備が進められ、継続して農業が営める農村環境が実現しています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①多様な担い手の育成による地域農業の再編と企業的農業経営の展開	就農支援事業を活用した新規就農者の確保・育成、後継者等の企業的経営志向や組織の法人化支援、樹園等の経営継承モデル地区の設定
②新技術や新品種の導入によるりんご、なし、かきの生産振興	りんご新わい化栽培の推進、なしジョイント仕立て栽培の技術確立と普及推進、適正な管理による原料柿の品質向上
③果菜類や新興野菜の推進による複合産地の構築	単収向上及び連作障害回避のための栽培技術高位平準化、複合経営モデル指標の作成及び複合経営体の育成、食品産業との契約取引の拡大
④特産農畜産物のブランド化と6次産業化の推進	伝統野菜の認知度向上と生産拡大、茶の品質向上、肉牛改良の促進、ダリア秋出荷の拡大、6次産業総合化事業計画の策定支援
⑤安心して暮らしやすい農村の創造	野生鳥獣を寄せ付けない集落環境整備の実践、耕作放棄地の解消と生産活動の維持、農業水利施設の耐震対策による安全な農村づくりの推進
⑥地産地消と地域の食文化に対する理解の促進	農山村資源の活用による事業推進への支援、世代間交流等による農村・地域コミュニティの機会づくり推進、学校給食等への農産物利用促進

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満） 農業法人数	24人 79組織	28人 93組織
新わい化栽培面積 かき栽培面積	14ha 511ha	100ha 530ha
きゅうり、トマト栽培面積 アスパラガス栽培面積	89ha 84ha	100ha 100ha
伝統野菜栽培面積 6次産業化法の計画認定数	8.2ha 0件	10ha 10件
耕作放棄解消面積 水利受益面積 地域ぐるみ活動面積	47ha 500ha 1,335ha	60ha 1,350ha 3,019ha
都市農村交流人口 学校給食利用率	190,758人 38.8%	205,000人 45%

# 木曾

## 地域で支え合い、育む木曾ブランド

### めざす将来ビジョン

- 農業・農村を支える多様な担い手が活躍し、木曾農業のブランドである「御嶽はくさい」、「木曾子牛」、「赤かぶ」、「すんぎ」などを核として、農業が持続的に発展しています。
- 住民参加により地域で支え合う体制づくりが進み、災害に強く安全で安心して暮らせる農村生活が営まれています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①農業・農村を支える多様な担い手の育成	就農準備セミナー等による新規就農者の確保、「人・農地プラン」作成による集落営農組織の育成
②木曾農業ブランドの「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興	農作業サポート体制の仕組みづくりと経営の改善、和牛繁殖センター等を活用した生産支援
③木曾オリジナルブランドの確立	経営モデル等に基づく推進品目の検討、施設園芸作物生産プロジェクトによる栽培技術向上支援
④中山間地域の特性を活かした元気な農村づくり	食品・観光産業と連携した農産物のブランド化の推進、新たな加工品・体験メニューの提案や販路の開拓
⑤住民参加による協働の農村づくり	野生鳥獣被害対策チームによる集落の主体的な活動への支援、農地や水路等の保全活動を行う組織への支援
⑥農村資源の活用と災害に強い農村づくり	農業水利施設を活用した小水力発電の推進、ため池の維持管理体制強化と安全対策の推進

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満） （直近5年間の累計）	6人	10人
御嶽はくさい出荷量 木曾子牛出荷頭数	44.5万c/s 822頭	45万c/s 800頭
販売額1千万円以上の園芸品目	7品目	8品目
都市農村交流人口	24,937人	30,000人
野生鳥獣による農産物被害額 多面的機能支払活動面積	29,108千円 158ha	22,000千円 470ha
小水力発電の箇所数	0箇所	3箇所



# 松本

## ～ Made in 信州まつもと ～ つなげる食と農－美しいふるさとへ

### めざす将来ビジョン

- 「Made in 信州まつもと」の農畜産物が広く信頼を持って受け入れられ、「信州まつもと」は消費者からマイファーム（自身の農場）として「選ばれる産地」となっています。また、ベストミックス（地域資源の最適な組合せ）による「持続的な農業・農村」が展開されています。
  - 「Made in 信州まつもと」のもと、食と農がつながり、美しいふるさとへと連なっています。
- ※ 松本地域（松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村）の総称として「信州まつもと」を使用

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①ベストミックスによる持続的な農業生産体制の構築	就農支援、人・農地プラン作成・実行への支援、水田区画整理の実施、地域農業リーダーの育成、集落営農組織活動への支援、農産加工経営への支援
②おいしい農畜産物の産地づくり	講習会等による高品質化の推進、りんご新しい化栽培への支援、農業生産基盤の維持等の推進、遊休農地活用への支援、6次産業化の推進
③環境に配慮した農業、安全・安心な農業の推進	信州の環境にやさしい農産物認証・環境保全型農業直接支援対策・エコファーマー、GAPへの取組支援、家畜防疫体制の強化、健康な土づくり
④「おいしい信州ふード（風土）」等の共有・発信	関係団体から構成される協議会によるPR活動の実施、マーケティング手法習得研修会の開催、異業種との連携推進、信州ワインバレー構想との連携
⑤食育・地産地消の推進	学校等での食育、農業体験の推進、食育ボランティア活動等への支援、食文化継承の推進、消費者と農業者が連携した地産地消の推進
⑥農村機能の維持・中山間地域の活性化	中山間地域での施設園芸等への取組を支援、野生鳥獣対策への支援、農業水利施設を活用した小水力発電への支援、グリーン・ツーリズムの推進

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満）	30人	40人
農地利用集積率	40%	56%
果樹等品評会上位入賞者数	3人	4人
六次産業化法の計画認定数	0件	16件
環境にやさしい認証面積	399ha	560ha
GAP取組団体数割合	20%	48%
協議会によるPR活動数	0回	2回
農畜産物新規取引件数	0件	5件
食育ボランティア数	1,549人	1,700人
食と農セミナー実施団体数	27団体	28団体
中山間地域における施設園芸への取組数	8件	15件
多面的機能支払取組面積	1,491ha	9,850ha

# 大北

## 北アルプス山麓の恵みを活かした農業農村の振興

### めざす将来ビジョン

- 意欲ある農業者や集落営農組織等の収益性が高く競争力の強い農業経営体を中心に自然環境との共生による持続可能な農業、園芸作物等の生産拡大による収益性の高い農業が展開されています。
- 観光産業等との連携による農業体験等が行われています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①地域農業を支える経営体の育成	地域農業を支える担い手の育成、集落営農組織の法人化支援、経営管理能力を有する経営体の育成、定年帰農者等活躍できる体制づくり
②付加価値の高い水田農業の推進	安全・安心な売れる米づくり、低コスト省力稲作技術の導入、大豆の優良品種への切り替え、環境と調和のとれた農産物の生産
③立地条件を活かした園芸産地づくり	りんご新しい化栽培の拡大・オリジナル品種の導入、アスパラガスの新規栽培者掘り起こし、ワイナリーを活用した観光と農業の振興
④北アルプス山麓ブランド等の地域振興への活用	新たな地域特産物の掘り起こし、北アルプス山麓ブランド認定品や農産物のPR、6次産業化に向けた支援、観光と連携した農業の振興
⑤農業・農村資源を活かした地域振興	農家民宿や農業体験提供農家の育成、児童・一般消費者への農業体験プログラムの提供、小水力発電による自然エネルギーの利用促進
⑥協働活動による農村の活性化	地域住民の協働作業による農地の保全と利用、野生鳥獣侵入防止柵の設置、山腹水路の補修・改修、特色ある地域振興作物の栽培支援

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
農業経営の法人化数	22組織	27組織
新規就農者数（40歳未満）	5人	6人
大豆優良品種栽培面積	0ha	100ha
環境にやさしい認証面積	67ha	80ha
りんごオリジナル品種	21ha	30ha
アスパラガス栽培面積	21ha	31ha
ブランド認定品数	67品	100品
六次産業化法の計画認定数	0件	11件
農家民宿数	43戸	80戸
都市農村交流人口	22,515人	25,000人
小水力発電量	142kW	300kW
農地等の保全面積	1,400ha	3,740ha
侵入防止柵設置延長	9km	100km

# 長野

## 新・感・鮮でつなげよう長野のくだもの 人と技で支えよう長野の農業・農村

### めざす将来ビジョン

- 青年就農者や企業的農業経営体等が地域農業の担い手として生き生きと活躍しています。
- 県下有数の果樹産地として、消費者ニーズの高い品種の生産拡大やりんご新しい化栽培が普及するとともに樹園地の継承システムが構築され、持続的で生産性の高い産地が形成されています。
- 環境にやさしい農業の取組が一層進み、農山村の多面的機能が十分に発揮されています。
- 農商工連携や6次産業化による新たな農業・農村ビジネスが展開され、豊かな農業・農村が実現しています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①地域の特色を活かした多様な経営体の確保・育成	新規就農者や定年帰農者等への技術習得や経営管理能力の向上に向けた支援、樹園地を継承する仕組みづくり
②未来に挑戦し続ける競争力の高い果樹産地づくり	消費者ニーズの高い品目・品種への転換、りんご新しい化栽培に必要な苗木の確保、消費者ニーズに対応した無核ぶどうの普及
③恵まれた立地条件を活かした特色ある産地づくり	アスパラガス夏秋どり作型の拡大、きのこの新品種・新技術の導入と経営安定対策、トルコギキョウの秋出荷作型の拡大
④地域資源の活用と新たな付加価値の創出による魅力ある農業・農村づくり	遊休農地等へのワイン用ぶどうの作付推進、自ら販路拡大や加工品開発等経営強化を目指す農業者の取組への支援
⑤中山間地域等の特性を活かした元気な農業・農村づくり	そば、うめ等による遊休農地の解消、集落ぐるみの野生鳥獣被害防止の取組、農村資源を活用した都市農村交流の促進
⑥環境との調和を目指した農村機能の充実	農地・水・環境保全活動の推進、環境にやさしい農業の推進や情報発信、農業水利施設を利用した小水力発電施設の設置

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満）	28人	34人
果樹県オリジナル主要品種栽培面積	706ha	1,070ha
アスパラガス夏秋どり比率	24%	30%
ワイン用ぶどう栽培面積	29ha	40ha
遊休農地の再生・活用面積（単年度）	43ha	184ha
多面的機能支払取組面積	890ha	5,020ha

# 北信

## 輝く人と恵まれた自然を活かした 心豊かで元気な北信州農業

### めざす将来ビジョン

- 企業的経営体や女性農業者等多様な担い手がいきいきと活動し、消費者ニーズを捉えた県オリジナル品種や地域有望品種等こだわりを持った生産がなされ、農業が魅力ある産業として発展しています。
- 地元産の農産物は、家庭やレストラン等で利用され地産地消が進んでいます。
- 直売所や観光農園等と観光業者が連携したグリーン・ツーリズムが発展しています。

### 重点的な取組方向

重点施策	主な推進方策
①経営感覚に優れた元気な担い手の育成	新規就農者・女性農業者等多様な担い手の育成、青年農業者育成講座の企画運営、青年農業者・女性農業者組織の育成、集落営農組織の育成
②人と環境にやさしい農業の推進	環境にやさしい認証制度の周知と誘導、環境保全型農業実施集落の支援、GAP導入推進、きのこ使用済み培地の再生利用等、野生鳥獣に負けない集落づくり
③地域資源を活かした個性輝く産地育成	県オリジナル品種や地域優良品種等こだわりを持った生産、施設化の推進、アスパラの病害防除対策の推進、きのこ経営の複合化の推進、新たな販路開拓と6次産業化等新たな需要拡大
④安全で住み良い農村づくり	地域共同活動の支援、地滑り防止対策、農業水利施設の長寿命化対策、耕作放棄地再生の推進
⑤地域食文化の伝承と農作業体験等都市農村交流の推進	地元ならではの食の情報発信、観光と連携したグリーン・ツーリズムの支援、郷土の味の伝承と地元農産物の利用促進、直売所等の資質向上支援

### 主な達成指標

指標項目	H22年度	H29年度
新規就農者数（40歳未満） 集落営農組織数	13人 22組織	31人 28組織
環境にやさしい認証面積 GAP活用農家グループ数	273ha 10グループ	530ha 20グループ
りんご三兄弟栽培面積 ぶどう無核種栽培面積 きのこ複合経営農家戸数	134ha 45ha 237戸	162ha 80ha 260戸
土砂災害防止面積 多面的機能支払等取組面積	929ha 2,512ha	960ha 4,213ha
都市農村交流人口 直売所販売額 信州ふーど（風土）SHOP	31,637人 10億円 0店	37,000人 14億円 50店

# 国の農業・農村政策の転換等を踏まえて 計画の一部を見直しました

(平成27年1月改訂)

## 計画見直しの背景

- (1) 国は、農林水産政策の基本構想となる「農林水産業・地域の活力創造プラン」を平成25年12月に公表
- (2) 農政の展開方向として、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を実現するため、以下の4つの柱を示し、農業・農村政策を大きく転換し、平成26年4月から新たな施策をスタート
  - ① 国内外の需要拡大（輸出の促進や地産地消の推進）
  - ② 農林水産物の付加価値向上（6次産業化等の推進）
  - ③ 生産現場の強化（農地中間管理機構の創設や米政策の見直し）
  - ④ 農業の多面的機能の維持・発揮（日本型直接支払制度の創設）
- (3) 国の新たな政策を最大限に活用し、振興計画の進捗を早めることを目的に、取組の強化や目標数値の変更を行う
- (4) また、国は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、国と地方が総力を挙げて地域の活力維持、少子化と人口減少を克服することを目指して取組を推進することとしていることから、それとの整合を図る

## 主な見直し内容

### 見直し項目

### 達成指標の見直し等

#### (1) 担い手への農地利用集積

- 「農地中間管理機構」を積極的に活用し、担い手への農地の利用集積・集約化を加速

**【達成指標】担い手への農地集積率** 53%  
 H22(基準) 39% → H29(目標) 51%  
**【参考】担い手への農地集積面積** 58,000ha  
 H22(基準) 43,628ha → H29(目標) 55,000ha

#### (2) 水田農業の構造改革

- 稲作経営体における、経営規模の拡大や園芸作物等の導入による経営の多角化、生産コストの低減技術導入等の取組を推進し、所得の向上による経営安定を図る

- 低コスト生産が可能な経営規模への拡大
- 園芸作物等の導入による経営の多角化
- ICTの活用等による生産コストの削減

**【達成指標】実需者ニーズの高い県オリジナル品種水稲「風さやか」の普及面積** 1,260ha  
 H22(基準) 0ha → H29(目標) 800ha

#### (3) 多面的機能の維持・発揮

- 農地の多面的機能を維持・発揮させていくため、市町村等と連携を図りながら、水路・農道等を地域ぐるみで維持管理する共同活動を拡大

**【達成指標】地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積** 50,000ha  
 H22(基準) 22,484ha → H29(目標) 25,000ha

#### (4) 農産物等の輸出促進

- 本県独自の輸出の取組に加え、オールジャパンの輸出に参加し、農産物等の輸出を大幅に拡大
- 新たな達成指標として、農産物等の輸出額を4倍とする目標を設定

**【達成指標】農産物等の輸出額(新規設定)**  
 H25(基準) 121,900千円 → H29(目標) 500,000千円

#### (5) 信州プレミアム牛肉の認定

- 達成指標「信州プレミアム牛肉の認定頭数」を上方修正し、県産牛肉のさらなる高付加価値化を推進

**【達成指標】信州プレミアム牛肉の認定頭数**  
 H22(基準) 844頭 3,700頭  
 H25(実績) 2,988頭 → H29(目標) 2,200頭

#### (6) 人口減少社会への対応

- 人口減少社会を見据え、人口の自然減の抑制や社会増による人口定着、まちづくり・生活・経済面での環境整備を推進

○県の「人口定着・確かな暮らし実現会議」において、国の地方創生の動きも踏まえて、平成27年度に策定する「総合戦略」に沿って、活力ある農村の創造に向けた施策を実施していく

長寿日本一の恵み  
おいしい信州カード(風土)  
～プレミアム・オリジナル・ヘリテージ～



3つの基準で選ばれた信州産農畜産物の統一ブランド

**プレミアム** Premium

信州には、こだわりの食材があります。

[長野県原産地呼称管理制度]  
[信州プレミアム牛肉認定制度]

**オリジナル** Original

信州で開発した、独自の食材があります。

[オリジナル品種]  
[全国シェア上位品目]

**ヘリテージ** Heritage

信州には、  
次世代へ引き継ぐおいしい郷土食があります。

[信州伝統野菜認定制度]  
[県選択無形民俗文化財]

◆第2期長野県食と農業農村振興計画の全文及び概要版は長野県ホームページに掲載しております。

第2期長野県食農計画

検索

お問い合わせ先

長野県 農政部 農業政策課  
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2  
電話 026-232-0111(代表)  
E-mail nosei@pref.nagano.lg.jp

発行/平成27年(2015年)5月